

1 自己評価の実施体制

(1) 方針

教職員、保護者、児童を対象に学校づくりアンケートを行い、結果の一部を公表するとともに、その結果考察をもとに学校運営の改善を図る。

(2) 組織・実施計画

- ① 校長 教頭 特別委員会（企画委員会）でアンケート内容検討 <12月>
- ② 職員会でアンケート内容決定<12月> → アンケート実施
- ③ 特別委員会（企画委員会）で結果分析・考察、改善策検討 <1月>
- ④ 職員会で共通理解 → 学校評議員会<2月> ホームページで公表<3月>

(3) 対象 ①教職員；全職員 無記名

②児童；3・4・5・6年 学年のみ記入

③保護者；全保護者 全児童について学年のみ記入

回答の指標 「A あてはまる」「B ややあてはまる」「C あまりあてはまらない」
「D あてはまらない」

2 評価結果（別紙「教育活動アンケート結果と達成状況」参照）

各評価項目について、「A あてはまる」と「B ややあてはまる」という肯定的な回答の割合を合計し、全体に対する割合で判定し、分析していくことにした。

- A 肯定的な回答の割合が全体の80%以上
- B 肯定的な回答の割合が全体の70%以上80%未満
- C 肯定的な回答の割合が全体の60%以上70%未満
- D 肯定的な回答の割合が全体の60%未満

	A	B	C	D
①教職員による学校づくりアンケート(15項目)	11	2	1	1
②児童による学校づくりアンケート (15項目)	10	3	1	1
③保護者による学校づくりアンケート(15項目)	14	1	0	0

3 考察（三者の比較を中心に）

(1) 全体的な傾向について

教職員・保護者・児童ともに概ね満足できるという結果である。しかし、教職員・保護者に達成状況がC、Dの項目が1つずつある。次年度どのように改善していくかを考え、取組や努力を充実させていく必要がある。

(2) 本年度の重点努力目標の達成状況について

ア 校内現職教育の推進

【教職員】個に応じた分かる授業を心がけ、学び合い学習にも取り組んでいる。	90%	外部講師を招いて校内研修や授業研究会を重ね、力量向上に努めてきた。さらに研鑽を積み、授業力のある教職員集団をめざしたい。
【児童】学校の授業はわかりやすい。	93%	
【保護者】授業が分かりやすいと言っている。	92%	

イ 児童理解の充実

【教職員】電話や連絡帳、家庭訪問などで、家庭との連絡をきめ細かく行っている。	93%
個々の児童をよく理解し、誠意をもって指導にあたっている。	100%
児童や保護者の相談には、誠意をもって対応している。	100%
個々の児童のよさが大切にされ、認められる学校になっている。	100%
児童は楽しく充実した学校生活を送っている。	100%
いじめのない学級作りを積極的に進めている。	100%
【児童】担任の先生は、自分のことをよくわかってくれる。	88%
おうちの人は、自分の学校の様子をよく知っている。	77%
学校の先生方は、自分ががんばったときよくほめてくれる。	86%
困ったことがあったときは、相談できる先生がいる。	71%

毎日学校へ行くのが楽しい。	88%
友だちとなかよく生活している。	94%
【保護者】電話や連絡帳などで、学校と家庭の連絡はきめ細かく行われている。	89%
教職員は、個々の子どもをよく理解し、誠意をもって指導している。	95%
個々の子どものよさや努力が認められる学校となっている。	96%
子どもの学習や生活について、担任や他の教職員に気軽に相談できる。	88%
わが子は、毎日学校に行くのを楽しみにしている。	92%
わが子は、友だちとなかよく生活している。	97%

児童、保護者、教職員の順に満足度が低い。共通理解のもと、全教職員で全児童を育てるという意識をもって取り組んできたが、自己満足に終わることなく、児童、保護者の状況を理解した上で、今後の取組を考えたい。常に児童の心に寄り添い、何でも相談できる雰囲気づくりを学校全体で大切にするとともに、真心を込めて人の話を聴くことを心がけていく。そして、日々の教育活動において、報告・連絡・相談を確実に行之、小さなことを見逃さず指導できる教師集団を目指したい。

ウ 子どもたちの環境整備

【教職員】児童が気持ちよく安心して学校生活を送れるよう環境を整えている。	86%
【児童】教室やろうか、トイレをきれいに使っている。	97%
【保護者】学校は、子どもたちが楽しい学校生活を送るために校舎・校庭・教室などの環境整備に努めている。	95%

児童が学ぶ環境をいかに整えるかが大切である。FBC学校花壇、2年生のサツマイモ作りやすいせん学級の野菜づくりなどでは、自然に親しむとともに教職員と児童、保護者が一体となって環境作りに取り組んできた。今年度は、非構造部材耐震工事や家庭科室、理科室の改修工事などにより、ずいぶん環境が整えられた。ただし、後者については、評価を実施した後のことで、教職員評価の数値には反映されていない。次年度以降も、改善点を出し合い学校全体で校内環境の整備を行っていききたい。

エ 地域社会の中の連携

【教職員】機会を捉えて学校の教育方針を分かりやすく伝えている。	100%
保護者が授業や学校行事を参観する機会をよく設けている。	100%
児童は、友だちや地域の人に進んで挨拶をしている。	39%
児童は、交通ルールをよく守っている。	63%
自主学習に取り組めるよう児童に積極的に働きかけている。	79%
家庭と協力して児童を育てる取組をしている。	81%
進んでお手伝いに取り組めるような働きかけをしている。	74%
【児童】学校からのおたよりなどは、必ずおうちに人に見せている。	95%
おうちの人に、もっと学校での自分の様子を見てほしい。	55%
家族や友だち、地域の人に進んであいさつしている。	83%
交通ルールは、きちんと守っている。	94%
家で進んで勉強している。	67%
家でよく話している。	89%
家でお手伝いをしている。	75%
【保護者】学校は、機会を捉えて学校の教育方針を分かりやすく伝えている。	99%
学校は、保護者が授業や学校行事を参観する機会をよく設けている。	99%
わが子は、家族や友だち、地域の人に進んで挨拶できる。	87%
わが子は、交通ルールをよく守っている。	94%
家庭で、わが子は自主的に勉強している。	70%
家庭で、わが子はよく話している。	94%
家庭で、わが子に家庭内のお手伝いをさせている。	84%

児童の学校外の生活に対する教職員の評価が厳しい。家庭や地域と連携して、学校でもできる範囲で指導していきたい。「家で進んで勉強する」という項目では、具体的な方策を立て、児童や保護者に働きかけなくてはならない。学校・家庭・地域の協働は、「地域の子」である児童の健全な育成に欠かせない。それぞれ双方向の情報交換を密にし、協力し合える関係を構築し、信頼される学校づくりに努めたい。25年度は、多くの方に学校に入っただき、地域講師として児童とともに学習を進めてきた。26年度も地域連携をさらに推し進めるとともに学校の取組を積極的に発信し、学校に対するさらなる支援・協力・理解を進めていく。

4 成果・課題と改善策

(1) 評価結果の活用

保護者や児童の評価を集計すると年を追うごとに評価が上がってきている。また昨年度評価が下がっていた教職員は、今年度は評価を上げている。数値をまとめ、結果を見ているだけでは、真の姿は見えにくくなってしまいがちである。常に新たな視点で学校教育を見直したり、改善したり、新鮮な気持ちで児童や保護者に働きかけていくことの重要性を感じた。

児童や保護者の評価に関しては、否定的な回答や保護者の自由表記の内容を真摯に受け止め、次年度の学校教育に生かすように心がけていきたい。そのためには、懇談や教育相談の場を大切にして話し合う、質問や意見に対して誠意をもって答えを示していく姿勢を心がけたい。

(2) 経営方針について

ア 教師の姿勢

「家庭と学校との連絡はきめ細かく行われている」「個々の児童をよく理解し、誠意をもって指導している」「個々の子どものよさや努力が認められる学校となっている」「授業がわかりやすい」の項目で肯定的な評価を得ていることから、教職員と児童・保護者の信頼関係は概ね良好に築かれているといえる。誠実で、熱心、そして親身になって指導にあたる本校の教職員集団のよさを損なうことなく、一人一人の力量向上のために、タイムリーな研修を積むこと、授業研究で切磋琢磨することを計画的に進めたい。

イ 学級・学年経営

児童の学校生活の基盤は学級である。まず、学級の学習環境を整え、よりよい人間関係を構築することで、「勉強がわかる」「友だちがいる」そして「学校が楽しい」と言えると考える。教室内の整理整頓、学習活動の様子や学級集団の仲間意識が伝わる効果的な掲示等に心がけること、教育相談を含めた児童理解の時間を大切にするを継続していきたい。25年度は、Q-Uアンケートを実施し、結果を踏まえ、様々な手立てを施してきた。26年度も、構成的グループエンカウンターやソーシャルスキルトレーニングを取り入れ、児童の人間関係づくりに役立てること、そして、ハイパーQ-Uや充実した教育相談でよりよい方向に導くことを行っていきたい。

ウ 学習指導

- ・ 分かる授業、深まる授業、学びあえる授業を現職教育のめあてとして取り組んできた。一人一研究授業を目標に、個々の教師が真剣に学習に取り組んできたことが、児童や保護者にも理解を得ているように感じる。理解に時間がかかる児童や集中力が乏しい児童にも学ぶ楽しさを味わえる授業の組立を工夫できたことが、成果だと感じる。
- ・ 26年度は、より具体的な目標や計画を立て、TT指導や個別指導なども取り入れて、教職員の理解と協力のもと学習指導を進めていきたい。本年度同様、保護者に来校していただく機会を設け、児童の姿はもちろん、熱心に取り組む教職員の姿も見えていただく。

エ 生徒指導

- ・ 集団行動のきまりを崩すことなく、本校のよき伝統となるよう全職員共通理解のもとで指導していく。合わせて、チャイム着席、あいさつの励行、師弟同行での清掃活動の実践により、規律ある態度の育成を図っていきたい。
- ・ 本校の伝統的な取組と言える縦割り班活動は、思いやりの心を育てる異年齢交流の場として有効であると考え。上級生を敬い下級生を思いやる縦割り活動を充実させていきたい。
- ・ 全教職員で全児童を育てるという意識のもと、報告・連絡・相談の徹底と全職員への情報交流に努める。(学級・学年、通学班、委員会、クラブ等での情報)
- ・ ホームページや学校からのおたより(光っ子、保健だより、食育通信、PTAだよりなど)の内容を充実させ、学校の取組や児童の様子を分かりやすく地域に発信できるよう校内体制を整える。
- ・ 防犯、交通安全指導では、保護者や地域の方の協力をいただき、スクールガードや見守り隊の体制づくりを充実させたい。